

社会福祉法人中央会 令和2年度事業報告

【施設方針】

施設理念「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」の実現に取り組む。

【行動方針】

1. 地域における総合的な高齢者福祉サービスを提供する拠点法人に向けて

有松圏域を中心とした近隣の高齢者に入居して頂けた。地域における活動においては、新型コロナウイルス感染予防対策のため運営推進会議や「あいこ祭り」「きまつし相河」等の行事はやむを得ず中止とし、域包括支援センターありまつ主催のオレンジカフェの講師派遣以外の地域貢献活動は自粛とした。米泉婦人部ボランティアさんとの交流やそれ以外のボランティアさんの訪問もすべて中止となった中、毎年交流を行ってきた米泉小学校からビデオレターと手作りのプレゼントを頂いたことは入居者様に非常に喜んでもらえたできごとだった。

2. 介護職員の育成に努める

退職者は令和2年度中に31名と最多であった。安定して働いてくれていた職員が事情でやむなく辞める場合等以外に、グループホームゆうけあ相河弐番館でのオープニングスタッフの離職者、また主任の交代が続いた特別養護老人ホームにおいての離職者が多かった。グループホームのオープニングスタッフの多くが50歳代や介護職が初めてという方が多く、思った以上に大変という退職理由が多かった。特別養護老人ホームでは入職3年以内の職員に退職が多い傾向にあり、令和元年から主任交代が続いたことで、ユニットリーダーと職員の育成、そしてチームワークづくりができなかつたことが理由としてあげられる。年度末時点では、グループホームの職員は安定した状況にあるが、特別養護老人ホームは、新体制を再構築し職員定着を目指す段階にある。介護度や医療度が高くても対応ができる職員の育成については、来年度においても継続していく。

3. 中央会として組織的な運営を行う

中央会グループとして、金沢有松病院とのPCシステムでの連携においては積極的に取り組むことができた。また施設内においても、100名を超えた職員に情報伝達と共通認識を行うためPCシステムの活用を推進できた。各委員会や事務部から、さらに積極的な情報発信することで活動を共通認識し施設全体での取り組みへとつなげられると思われる。また利用者様が常に必要なサービスを受けられるよう事業所の変更や入退居への速やかな移行については、各事業所の情報が集約できずにスムーズにいかない場合も多かった。各事業所の情報を一元管理した一体的運営が令和2年度においても課題として残った。管理職のリーダーシップ力、マネジメント力については特別養護老人ホーム以外の事業所ではベテラン職員で固定できているためプラスアップできた。しかしながら、在宅サービスで稼働率が低下した原因が、コロナ禍だけではなく、近隣に年ごとにショートステイや有料老人ホームが連立し競争が増してい

る外部環境へのマネジメント力不足が原因にあるように思われる。利用者様が住み慣れた地域で安全・安心に暮らし続けられるために、中央会グループが医療と介護の連携で高齢者福祉サービスを推進している姿勢を、積極的に地域に示していく必要性が増している。

4. 経営基盤の強化と確立

(1) 事業所稼働率と収支報告（資料グラフ参照）

① 事業活動収入について

前年比113.9%だった。事業所別には入居系サービスの特別養護老人ホーム・グループホームの収入は横ばいだった。在宅系サービスのショートステイ・デイサービス・小規模多機能は新型コロナウイルス感染防止対策として利用をお断りする場合や、利用者様が利用を控える状況が生じ、稼働率が下がり収入減となった。しかしグループホーム式番館が増えたことで法人全体の収入は増した。

② 事業活動支出について

前年比112.0%だった。主な原因是、グループホーム式番館開設により人件費が前年比115.5%と増えたためである。

③ 事業活動資金収支差額について

前年比131.0%だった。事業所別には、特別養護老人ホーム・グループホームは横ばいだったが、ショートステイは前年の43.9%・デイサービスは80.4%・小規模多機能は53.1%だった。

④ 当期資金収支差額について

グループホーム式番館での当期資金収支差額は(13,676,282円)、特別養護老人ホームは前年比125.9%(15,750,359円)、北國銀行借入金償還が終了したグループホームは前年比220.1%(14,213,142円)だった。しかし在宅サービスではコロナ禍のダメージが大きく、ショートステイは前年比6.0%(429,647円)、デイサービスは前年比38.1%(4,458,850円)、小規模多機能は23.5%(2,489,410円)と厳しい結果だった。

全体の当期資金収支差額は25,096,793円だった。

(2) 法人設立10年目の年であり、将来を見通した計画的効率的な事業運営を行うため、現在行われている人事管理、労務管理、財務管理、資産管理の見直しを行った。

① 人事管理に関しては

- ・基本給の昇給の仕組みを改正し、優秀な職員にはキャリアパスに応じた昇給額を支給する基準を作成し6月より実施した
- ・パート時給を、介護福祉士を920円から1000円に80円アップ、初任者研修了者を870円から950円に80円アップを3月から行った。若干ながらパート職員獲得につながった。

② 労務管理について

- ・「働き方改革有給休暇5日取得」ができるように、毎月消化状況を確認し計画的に付与した。
- ・業務や繁忙に応じたフレックスタイムのパターンを増やした。

③ 財務管理について

- ・特別養護老人ホームゆうけあ相河の石川県バリアフリー（施設整備促進融資）の借入金償

還が終了した。代わりにグループホームゆうけあ相河式番館の北國銀行の借入金償還が令和2年1月より始まった。

- ・清掃会社「常澤ビルサービス」の委託10年を節目に、清掃員の清掃状況の見直しを行った。オープン当時から来ている80歳代の1日勤務の清掃員が午後からの休憩時間を規則以上に長くとっており年齢的に1日勤務が無理になっているようだった。そのため高齢者を複数半日勤務の組み合わせに変更した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続き、消耗品の仕入れ価格の高騰、品薄や欠品により安定した商品の購入が難しく支出は増えた。その中で特に消耗が激しかったプラスチック手袋に関しては、毎月各部署の使用量チェックを行いより安価なポリエチレン手袋で足りるであろう作業はポリエチレン手袋で行うように職員に依頼した。年初に比べて年度末の使用量は削減できている。ただ価格は高止まりしているので今後も警戒が必要である。
- ・水道・光熱費については、年ごとの気温差による使用量の変化は見られるものの無駄のない貯湯量にコントロールできるようになったことから、本館部分の日本テクノの監視装置を解約し、北陸電力から監視機能は劣るが無料の監視システムを導入した。電気点検には北陸保安協会を採用した。結果保守費用の削減ができた。

④ 資産管理に関しては

送迎車両は軽自動車3台、普通車1台の買い替えを行った。それ以外の大きな固定資産に変更はなかった。しかし、特殊浴槽の電源部、エコキュートのポンプ、車両のスライドドア等、エアコンの基盤、ディサービスの天窓ひび割れ等の修理があり、令和3年度も給湯ポンプ水漏れ、貯水槽水漏れ、外壁クランクでの雨漏り等の修理が控えている。修理、メンテナンスが増えてきている。

5. 介護職員確保に努める

新型コロナウイルス感染予防対策を行うため、福祉系専門学校や大学、職業訓練校など見学実習の受け入れ、高校生のインターンシップやボランティアの受け入れを行うことができなかった。例年、見学・実習をきっかけに採用を行っていたため、受け入れができなかつことは非常に痛手だった。また、従来の募集活動（福祉・介護就職フェア参加、福祉のお仕事グッドマッチング面談会参加など）も中止になったり、あっても求人者が少なく、やむなく令和元年からスマホ媒体の求人を利用、令和2年度で新型コロナ対策支援の助成金を活用した有料職業紹介事業を利用した。しかしそれらで採用した職員は短期間で辞める傾向があり、さらに離職人数を増やすという悪循環がおこった。令和2年度は、辞めさせない職員育成に非常に苦慮した年だった。

6. 新型コロナウイルス感染症への対策

令和2年2月の国内での新型コロナウイルス発症から1年以上経過したが終息は見られていない。令和3年2月にはステージII（感染拡大警報）が発出された。対策に追われ戸惑うことばかりだったが、感染状況に対応した感染予防対策は施設全体で行えた。また、職員には長期間に及ぶ緊張と生活への行動制限を強いられながらも頑張ってもらえた。おかげで、今まで職員の濃厚接触者1名のみで入居者様の濃厚接触者、コロナ感染者の発生は無く安堵している。また、家族様においても面会制限について理解し協力をいただけた。

7. 令和2年度事業所目標の評価

特別養護老人ホーム

- (1) 入居者様目線で思いを受け止め、入居者様に合わせたケアを行う

《評価》

入居者様の直接的な希望を受け止めるだけでなく、普段の様子を観察し、その時々に適したケアを考え、個別ケアを行うことが概ねできた。

- (2) 多職種間で報告・連絡・相談をしっかりと行い、発信する情報や記録に責任を持つ

《評価》

記録や口頭での申し送りを通して、多職種間の情報共有は概ねできていた。新人職員からは情報により伝達方法（P C・申送りノート・口頭）の選択が難しいという意見も聞かれたため、今後も継続して共通認識が持てるよう努めていく必要がある。

グループホーム

- (1) 入居者様の思いを知ろう

《評価》

職員個々が良く取り組んでおり、目標は達成できていると感じる。ケアを行ううえで一番先に入居者様の思いに沿うことを職員全員が取り組んでいたと思う。

- (2) ユニット間の情報共有と連絡を強化する

《評価》

できていないことも多く、知らなかつたとの言葉がよく聞かれた。今後の課題である。

- (3) 職員同士の声かけを多くし、良い雰囲気をつくる

《評価》

年間を通して良い雰囲気だったとは言い難く良い時もあれば職員の心がバラバラだと感じるときもあった。危機感を感じたため修正を考慮したところ最近はやや持ち直した様子。今後も継続していく。

グループホーム式番館

- (1) 入居者とともに温かく笑顔の絶えないグループホームを創る

《評価》

コロナ禍で入居者様には面会制限や外出制限などで思うような行事ができず、制限の中でいろいろ行ってきたがストレスが溜まっている様子が見受けられた。

- (2) ケアの質の向上のため、ユニットごとにミニミーティングを行う

《評価》

ユニットごとに申送りと兼ねてミーティングを行ってきた。

- (3) 職員個々がレベルアップする

《評価》

個々に職員は施設内外の研修に参加し、職員間での新人教育で勉強はしてきたが現場で実際に起こる様々な場面には対応できていないことがあった。

ショートステイ

- (1) 安全や快適性の配慮に務める

《評価》

利用者が安全に過ごして頂けるようその方のA D Lに合わせた居室作りを行うことができた。

感染防止のため適宜換気を行いながら快適に過ごせるような室温を心がけた。フロアや居室が家庭的な雰囲気、季節を感じられるようなしつらいができた。

(2) 利用者様の尊厳を守り満足度の高い接遇を行う

《評価》

利用者様のプライバシーへの配慮、笑顔でのコミュニケーション、楽しく過ごして頂けるような関わり、その都度納得して頂けるような対応を常に心がけた。忙しさや自分の感情が接遇に反映してしまい不適切な言葉使いをしてしまうことがあった。

(3) 円滑な業務の推進を図る

《評価》

報連相を心がけ職員間で情報を共有し協力し業務を円滑に進めることができた。今後もチームで助け合い効率よく業務を行っていきたい。

小規模多機能型居宅介護

(1) 利用者様の「～したい」を実行する

《評価》

コロナ禍の「～したい」の外食・見学などの外出はできなかつたが、感染対策を行ってのドライブを行つた。外出ができない分、フロア内のしつらえに工夫を凝らし季節を感じて頂いた。一人ひとりの思いを日頃の会話から聞き出すように努め、希望されることができるだけして頂いた。

(2) 利用者様に毎日笑顔で喜んで過ごして頂く

《評価》

フロア内で行える体操、レクレーション、行事や普段の会話を通して笑顔で過ごして頂けるように心がけた。新しいレクレーション、行事などを取り入れた。

(3) 急変に対して職員全員が自信をもつて対応する

《評価》

体調の変化に気づけるよう、急変に落ち着いて対応できるようにフローチャートやマニュアルの確認を心がけた。

デイサービス

(1) 利用者様のケアプランに沿った個別ケアに全スタッフで取り組もう

《評価》

個別レクレーションカードの作成により全スタッフが統一したレクリエーションの提供と評価を行うことができた。

(2) 利用者様・家族様への挨拶と丁寧な対応に気をつけ接遇力をあげよう

《評価》

新規利用者様には丁寧な対応ができているが、慣れてくるとつい言葉使いが崩れてしまうことが多かった。利用者様や家族様への挨拶や報告などはしっかりできた。

(3) 新規利用者様の獲得に向けて新たな企画にチャレンジしよう

《評価》

コロナ感染対策のため、カラオケや大きな声での合唱、おやつ作りなどのレクレーションは制限したため、利用者様には物足りなく思われることもあったように思う。お試し利用の場合は、その方が好きなレクレーションに切り替えて楽しく過ごせるよう

にし、利用につなげることができた。

看護部

- (1) 職員間で情報共有に努め、密に連絡・相談を行い、統一したケアを提供する
《評価》

看護師ミーティングで情報共有を行うことができた。

- (2) 施設全体の看護師として情報収集に努め業務を行う
《評価》

他職種と共に各事業所の申し送りやカンファレンスに参加できた。看護師としての情報を提供し意見交換することで、利用者様へより良いケにつなげることができた。

- (3) 看取り介護において、利用者様・家族様の気持ちを尊重しながら、状態に合わせたケアを行えるように、ケアカンファレンスを適宜行い介護職と協働していく
《評価》

看取りの件数は少なかったが、看取りカンファレンスに参加し、情報を共有し、多職種が協働し、穏やかに入居者様を看取ることができた。

栄養部

- (1) 多職種と報告・連絡・相談を心がけ、利用者様の状態やニーズに合わせた食支援を行う
《評価》

多職種と情報共有するように努めたが、伝達が不十分なことがあったため確認をしっかりとていきたい。

- (2) 食材の硬さ・味付け・バランス・色合い・盛り付けに気を配り、食事が楽しみになるよう努める
《評価》

日によって摂取量のばらつきはあるが利用者様には楽しみにして頂いている。

- (3) 季節の食材や行事食を大切にし、変化を楽しんで頂けるような食事の提供に努める
《評価》

月に一度、季節感を取り入れたイベント食を提供できた。マンネリにならないようにメニューを取り入れている。

事務

- (1) 他部署とも情報共有の強化を図る：他部署への声かけ、意見交換をより密に行う
《評価》

一人ひとりが業務を行う中で学んだ知識を事務内で共有することができた。他部署への報告・連絡・相談も以前よりも意識付けて行ってきたため強化できた。

- (2) 心のこもった対応を行う：丁寧な言葉遣いと真心こめた接客
《評価》

受付対応については、言葉使いに至らない点はあるが、利用者様・家族様・業者様との接触が増えることで良好な関係は築けてきていると思う。

- (3) 施設内外の環境整備：美化チェックリストの再確認と改善
《評価》

美化チェックリストの再確認は行ったが、周りの職員に言われてから気づき対応するケースが多くあった。より意識付けをする対策が必要。

8. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

年 度	月	新規入所者			退所者						計
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	
令 和 2 年 度	4	1			1				1		1
	5										
	6										
	7			1	1				1		1
	8		1		1					1	1
	9										
	10	1			1					1	1
	11										
	12										
	1										
	2	1			1				1		1
	3										
	計	3	1	1	5				3	2	5

グループホーム入退所（定員18名）

年 度	月	新規入所者			退所者						計
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	
令 和 2 年 度	4										
	5						1				1
	6			1	1						
	7			1	1		1				1
	8							1			1
	9	1			1						
	10										
	11			1	1		1				1
	12			1	1				1		1
	1			1	1		1				1
	2						1				1
	3			1	1						
	計	1		6	7		5	1	1		7

グループホーム式番館入退所（定員18名）

区分 年 度 月	新規入所者				退所者					
	在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令 和 2 年 度	4									
	5									
	6									
	7									
	8									
	9	1			1		1			1
	10						.			
	11	1			1		1			1
	12									
	1	1			1		1			1
	2		1		1				1	1
	3									
計		3	1		4		3		1	4

9. 救急車搬送状況

年度	月	件数	部署	状況
令 和 2 年 度	4	2	特別養護老人ホーム	心停止
			グループホーム	意識レベル低下
	6	2	ショートステイ	呼吸状態悪化
			デイサービス	心停止
	7	1	特別養護老人ホーム	脳梗塞疑い
	8	2	デイサービス	嘔吐 めまい
			グループホーム	呼吸状態悪化
	9	1	ショートステイ	吐血
	11	1	グループホーム	呼吸状態悪化
	12	2	グループホーム	心停止
			グループホーム	くも膜下出血
	1	3	グループホーム	血圧上昇
			特別養護老人ホーム	けいれん発作
			グループホーム	呼吸状態悪化 血圧低下
	2	2	グループホーム式番館	脳出血
			ショートステイ	発熱 呼吸状態悪化
合計件数		16		

10. 事故発生状況（金沢市報告）

〔R2年4月1日～R3年3月31日〕

部署	件数	内容	状況
特養	1	右上腕骨頸部骨折	強い介護拒否と右前胸部から右上腕部に腫脹と皮下出血あり整形外科受診。骨折の原因となる出来事不明。
ショートステイ	2	打撲	居室前で転倒しているのを発見。全身に外傷は見られなかったが、腰部と頭部の痛みの訴えあり整形外科受診。CT検査の結果異常なし。
		左手親指付け根腫脹	血圧測定時に発見、痛みはなくいつから腫脹があったのか不明。整形外科受診。レントゲン検査の結果異常なし。
グループホーム	1	職員が新型コロナ ウイルスの濃厚接触者 になった。	職員の東京在住の息子さんが帰省後に、帰省前に接觸していた友人がコロナを発症し、息子さんもPCR検査の結果陽性だった。濃厚接觸者となる前に接觸した入居者様と職員はすぐにPCR検査を行い、全員陰性だった。
グループホーム 式番館	5	打撲	居室ベッドからずり落ち、床に長座位のところを発見。 足の痛みがあり立てず、整形外科受診。
		左肋骨骨折	居室で着替えようとして転倒し痛みあり整形外科受診。
		左大腿骨頸部骨折	居間で他入居者様と歓談中に椅子ごとひっくり返る。 左大腿部に痛みと腫脹あり整形外科受診。
		右臉上切り傷	ポータブルトイレ使用時に転倒。ベッドに顔面をぶつけたと思われる。
		打撲	居室前廊下で歩行器使用中、歩行器が先に行ってしまい転倒。背中を打撲し整形外科受診。
小規模多機能	0		
デイサービス	2	送迎車の接觸	他施設の送迎車に後方より接觸。けが人はなし。
		顔面打撲	体操中、車椅子から前方へ転落。顔面を打撲し腫脹と鼻と口の中より少量の出血あったため外科受診。

11. 職員の採用・退職の状況

〔R2年4月1日～R3年3月31日〕

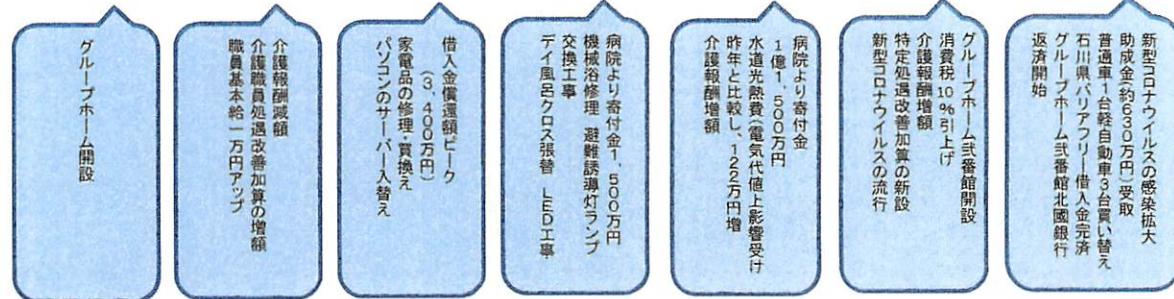
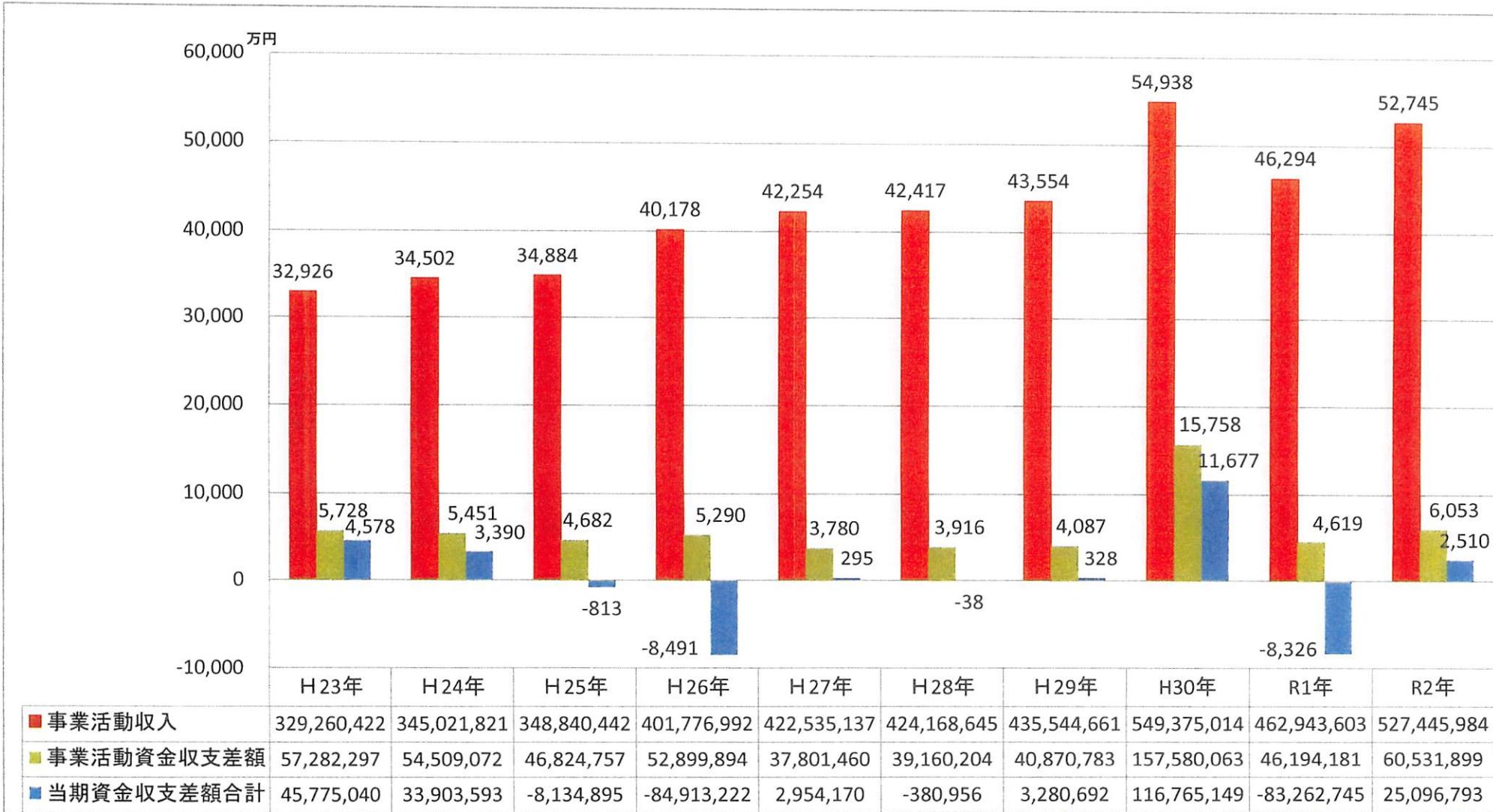
職種別		施設長	事務員	直接処遇職員					栄養士	療理法士	宿直	合計
				相談員	生活員	職介員護	職看員護	マケネア				
令和 2年 度	採用		1 (1)	1	31 (13)	2 (1)	2 (2)	36 (16)	1			38 (17)
	退職			1	27 (12)	1 (1)	2 (1)	31 (14)	1			32 (14)
	3月末 職員数	1	4 (2)	1	85 (22)	8 (3)	3 (2)	97 (27)	1		2 (2)	105 (31)

()はパート・派遣社員等非常勤人数

12. 施設職員の研修状況

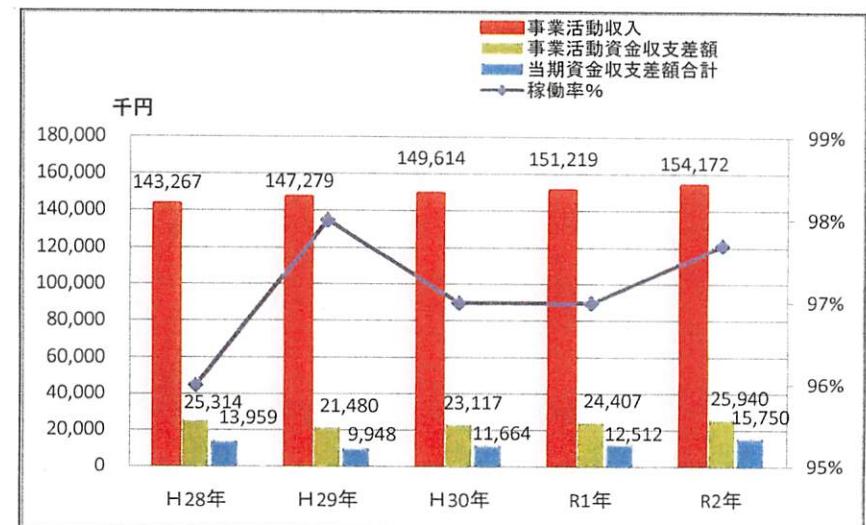
[R2年4月1日～R3年3月31日]

	回数（延べ人数）	
新人研修	3回（28名）	感染・褥瘡 事故防止 各部署の概要と活動 身体拘束排除・プライバシー保護など
職場外研修	22回（40名）	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会・オンライン研修に参加
職場内研修	8回（154名）	水害時対応訓練 褥瘡・栄養・水分（脱水）について 認知症ケア 誤嚥・窒息などの対応 記録について 身体拘束・事故防止 各事業所発表（看取り事例報告 認知症個別ケアの取り組み 多職種連携の重要性 レクリエーションの充実など）
外部講師研修会	8回（169名）	新人接遇・接遇フォローアップ研修 倫理・法令遵守研修 移乗介護技術 排泄介助 吐物処理実技・感染拡大防止の知識



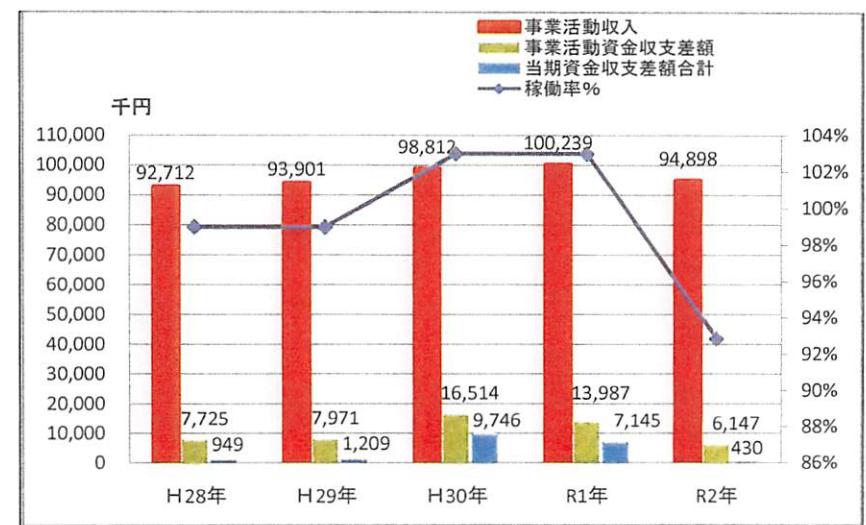
■資金収支比較(特養)

特 養		H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
	稼働率%	96%	98%	97%	97%	98%
事業活動収入	143,267,489	147,278,770	149,614,174	151,218,562	154,171,854	
事業活動資金収支差額	25,313,988	21,480,041	23,116,524	24,407,410	25,940,125	
当期資金収支差額合計	13,959,031	9,948,065	11,663,563	12,512,460	15,750,359	



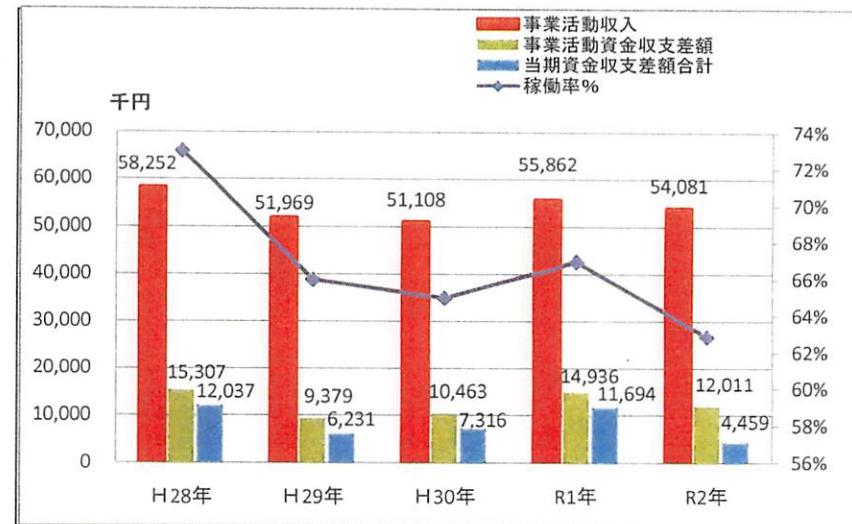
■資金収支比較(ショートステイ)

シ ョ ー ト		H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
	稼働率%	99%	99%	103%	103%	93%
事業活動収入	92,711,780	93,900,668	98,811,788	100,239,468	94,897,901	
事業活動資金収支差額	7,725,407	7,971,484	16,513,535	13,986,718	6,146,597	
当期資金収支差額合計	948,688	1,208,593	9,746,459	7,145,253	429,647	



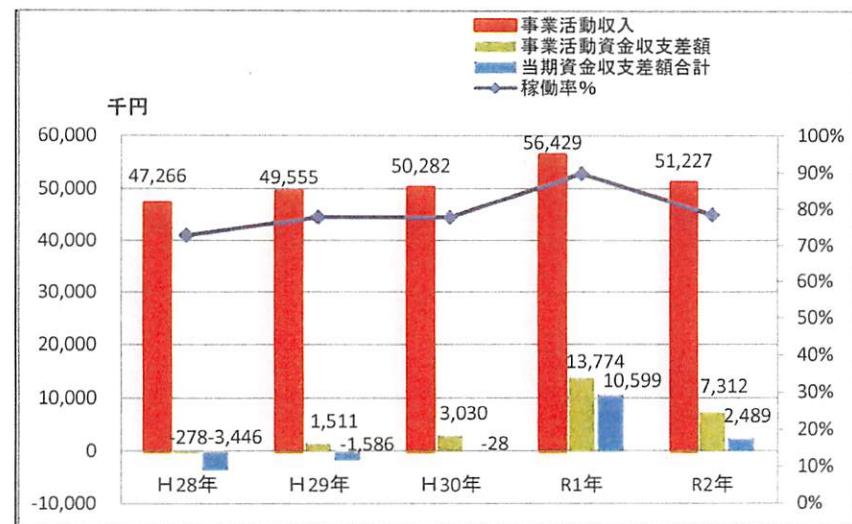
■資金収支比較(デイサービス)

デイサービス					
	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
稼働率%	73%	66%	65%	67%	63%
事業活動収入	58,252,109	51,968,513	51,107,965	55,861,562	54,080,553
事業活動資金収支差額	15,306,598	9,379,163	10,462,771	14,935,702	12,010,639
当期資金収支差額合計	12,036,539	6,231,044	7,315,873	11,693,720	4,458,850



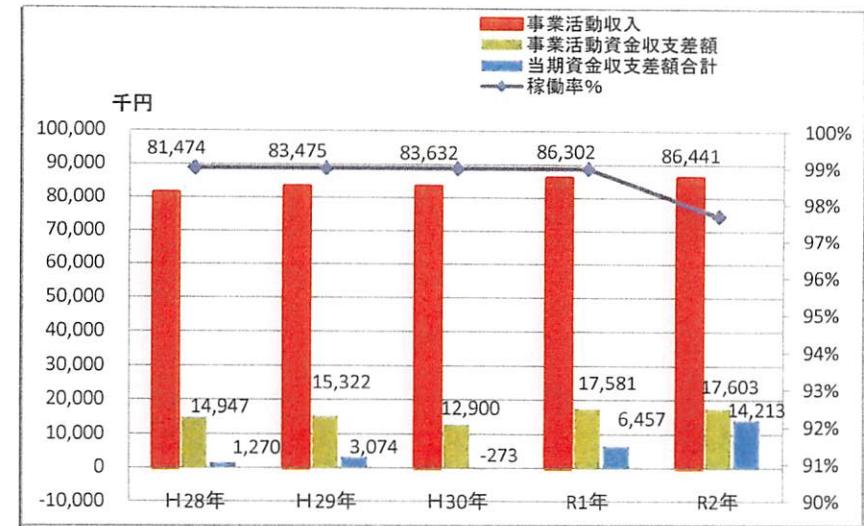
■資金収支比較(小規模多機能)

小規模多機能					
	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
稼働率%	73%	78%	78%	90%	79%
事業活動収入	47,265,785	49,555,204	50,281,517	56,428,762	51,227,482
事業活動資金収支差額	-277,614	1,510,557	3,030,001	13,773,740	7,312,360
当期資金収支差額合計	-3,446,369	-1,585,929	-28,298	10,598,637	2,489,410



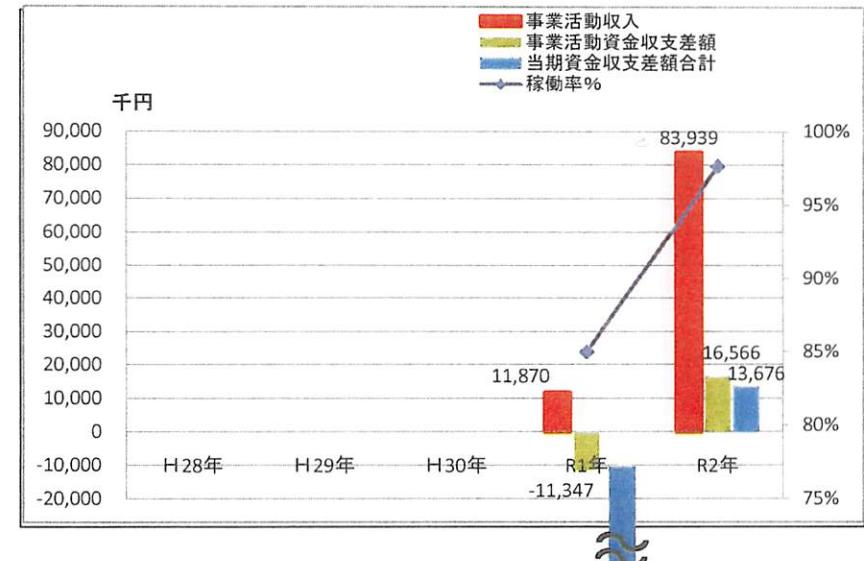
■資金収支比較(グループホーム)

グル ープ ホ ーム		H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
	稼働率%	99%	99%	99%	99%	98%
事業活動収入	81,473,553	83,474,814	83,632,059	86,301,969	86,441,320	
事業活動資金収支差額	14,947,148	15,321,896	12,899,542	17,580,834	17,603,004	
当期資金収支差額合計	1,269,856	3,073,672	-272,542	6,457,335	14,213,142	



■資金収支比較(グループホーム式番館)

グル ープ ホ ーム 式 番 館		H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
	稼働率%				85%	98%
事業活動収入				11,869,992	83,939,446	
事業活動資金収支差額				-11,347,435	16,566,144	
当期資金収支差額合計				-111,834,526	13,676,282	



-111,834,526